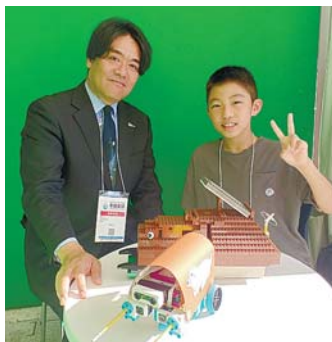


# 若年層に技術アドバイス

## 「お問い合わせ」丁寧に対応

日さく(さいたま市、若林直樹社長)は、広く地域や社会に貢献する観点から、自社ホームページの「お問い合わせ」に届いた児童や学生といった若年層からのメッセージにも丁寧に対応している。2025年度は、約40件のうち小学生と高校生からそれぞれ1件ずつ、ロボットコンテストに関する問い合わせ



仮谷さん(右)と高橋部長。  
手前はモグラ型ロボット  
「モグラット」

### 日さく

があり、アドバイスをした。

25年8月開催のロボットコンテスト「WRO2025 JAPAN」の出場を控えていた広島県廿日市市在住の仮谷健太郎さん(小学4年生)からは、地中を掘り進みながら地下水を探すモグラ型ロボットのアイデアについて、さらなる開発を進めたという問い合わせがあった。日さく技術開発本部の高橋直人部長らは、オンラインで情報交換し、地下水や地下探査に関する技術的なアドバイスをを行った。国際大会への出場権は獲得できなかったが、全国大会では高い評価を得ることができた。

京都府の東山高等学校ロボット研究会の伊藤光軌さんらは、

ロボットコンテスト「FIRST LEGO League」への参加に向け、問い合わせをした。伊藤さんらは大会目標の

「地中に関する、世の中でまだ広く利用されていない技術の普及」について検討を進めていた。

日さく技術開発本部は、自社で取り組んでいる地下に関する技術を紹介し、アドバイスした。同研究会は、地形図や古地図、地質図などのさまざまな地図をウェブ上で並べて表示し、比較して確認できるサイトを立ち上げ、東海大会で総合第3位となり、全国大会では36校中16位の成績を収めた。

同社は、一般企業からだけでなく、若年層からの問い合わせにも対応することで、将来、若い世代が新しい技術の研究開発に携わることを期待している。

